

メッセージアウトライン ローマ7：1～6 「新しい生き方」

[1]「それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか。— 私は律法を知っている人々に言っているのです。」

パウロはここでさまざまな神の戒めからなる律法の権限を取り上げるが、これはモーセの律法のことだけではなく、広く法律一般のことと考えることもできる。彼は律法が人に対して拘束力を持つのはその人の生きている期間だけだということを強調する。彼は、「知らないのですか」と疑問形で問うが、もちろん律法を知っている者には当然理解できることである。

[2]「夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。」

結婚した女性は、法律上、夫と結ばれた者となる。これは、当時は夫の拘束のもとに置かれることを意味した。しかし、もし夫が死んだならば、その法的効力は失われ、夫に関する律法から解放されるのである。

[3]「ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとい他の男に行っても、姦淫の女ではありません。」

パウロがここで明らかにしようとする原則は、法的拘束力は死んでしまった者には及ばないし、また相手の死によって消滅するということ。そして、この原則は信仰者と律法との関係においてもそのまま当てはまるのである。

[4]「私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。」

十字架につけられたイエス・キリストの身代わりの死によって、信仰者は人にさまざまな要求をもたらす律法に対して死んでいる。罪のもと、律法のもとにあった時には神のために実を結ぶことができなかつた者が、キリストと結ばれることによって、神のために多くの実を結ぶことができるのである。

[5-6]「私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。しかし、今は、私たちは自分を捕らえていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。」

「肉」とは神にそむく人間の生まれながらの性質一切を指す。律法は肉にある人間の欲情を誘発して罪を犯させる働きをする。しかし、イエス・キリストを信じ救われた者は律法に対して死んでおり、その束縛から解放されている。そして与えられた御霊によって神に仕え、神のために実を結ぶ新しい生き方ができるようになるのである。